

「爆発・火災」に関する体感安全教育情報の共有化に資するアンケートのお願い（案）

資料2

製造業安全対策官民協議会（以下「官民協議会」）サブワーキンググループ田村チームにおいて、これまで「体感安全教育項目の体系化と各階層への実施が望ましい体感安全教育項目」および「体感安全教育施設・設備の保有状況および利用状況」については皆様のご協力によりアンケートを実施させていただきました。これらの結果については官民協議会において発表させていただきました（2018年官民協議会、2019年官民協議会、2021年官民協議会）。

今後の災害防止に資する体感安全教育の推進のためには、体感安全教育施設・設備の共有化と体感安全施設・設備情報の共有化が重要であると考えております。

そこで、今回は体感安全教育施設・設備情報の共有化の一環として、発生すると重大な災害となる可能性が大きい「爆発・火災」について、体感安全教育施設・設備に関する情報を可能な範囲でご提供いただき、それを基に情報の共有化を諮り、「爆発・火災」事故の防止のための効果的な体感安全教育を進めていただく上での参考にさせていただきたいと思っております。

この趣旨をご理解いただき、「爆発・火災」に関する体感安全教育施設・設備に関するアンケートにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

※ ご提供いただいた内容は、ご提供先が特定出来ないように集計し、官民協議会、全国産業安全衛生大会、中央労働災害防止協会ホームページ（<https://www.jisha.or.jp>）に公表する予定です。

※ 貴社で保有されている「爆発・火災」の施設・設備について、事業所単位でお答え下さい（一事業所で当アンケート一通をご回答下さい）。

※ 事業所内で「爆発・火災」に関する施設・設備を複数保有し、また点在する場合は、点在する施設・設備を事業場全体で一つの設備とみなしてご回答下さい。

製造業安全対策官民協議会（田村チーム）

0 基本情報

(1) 会社・団体名

(2) 事業所名

(3) 業種（企業の場合） ※↓プルダウンメニューから選択してください。

(4) 規模（正規職員数）

名

(5) 連絡先

部署名

氏名

電話

メール

※本アンケートにご記入いただいた個人情報は、当協会にて慎重に管理し、回答に不明点があった際の確認（問合せ）及び集計以外の目的では使用しません。ご不明点は、下記までお問合せください。

製造業安全対策官民協議会（田村チーム）事務局（中央労働災害防止協会教育ゼロ災推進部）
TEL 03-3452-6186 鈴木

「爆発・火災」（バーチャル・リアリティ（VR）を含む）に関する体感安全教育施設・設備に関する以下の1～9の設問について、当てはまる番号にチェック（✓又は●印）を入れ、チェックした番号に、テキストボックスがある場合には、所要事項をご記入下さい。

1 「爆発・火災」体感安全教育施設・設備の保有目的について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい。（複数回答）

- (1) 「爆発・火災」に関する事故が多いため
- (2) 危険に対する感受性を高めるため
- (3) 座学だけでは安全意識の向上が図れないため
- (4) 経験の浅い労働者の安全意識の向上のため
- (5) 危険に対する慣れや知識・体験不足による危険予知能力が低下しているため
- (6) 職場に存在する危険を具体的に示し、身近な危険を直感的に理解してもらうため
- (7) その他（以下にご記入下さい）

2 「爆発・火災」体感安全教育施設・設備を用いた体感安全教育（VRを含む）について、貴社が実施しているもので、当てはまる番号にチェックを付け、その教育時間（講義時間を含む。）をご記入下さい。（複数回答）。

1) 体感安全教育の項目・時間（分）

- | | | | |
|---|----|-------|---|
| <input type="checkbox"/> (1) ガスの引火・爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (2) 溶剤の引火・爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (3) 発火・爆発性物質の発火・爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (4) 混合危険物質の発火・爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (5) 粉じん爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (6) 水蒸気爆発 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (7) 火炎伝播 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (8) ボイルオーバー | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (9) 高濃度酸素燃焼危険 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (10) 換気不十分環境における火気作業 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (11) 静電気帯電 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (12) 溶断・溶接による引火 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (13) 蛸足配線火災 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (14) 短絡火災 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (15) 過負荷火災 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (16) 消火・防火 | 時間 | _____ | 分 |
| <input type="checkbox"/> (17) その他 | 時間 | _____ | 分 |

2) 指導員 ※点在する複数の施設・設備を一つとみなして回答いただく場合は、以下①は事業場全体の人数を、②は全員の経歴（複数回答）をご回答下さい。

①体感施設・設備全体の人員について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい。

- (1) 1～3人 (2) 4～6人 (3) 7～9人 (4) 10人以上

②主な経歴について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい（複数回答）。

- (1) 安全衛生管理者・スタッフ
- (2) 危険有害業務に係る有資格者
- (3) 製造ライン従事経験者
- (4) その他（以下にご記入下さい）

3) 体感安全教育において習得すべきポイントについて、当てはまる番号にチェックを付けて下さい（複数回答）。

- (1) 体験そのものは教育の目的ではなく、一過性の体験に留まることなく、「体感を通じて何を学ぶのか」という教育の目的を明確にしている。
 - (2) 実際の現場作業と密接に関連する現実的な内容としている。
 - (3) 体験者の想像力を刺激し、自発的な「気付き」を促す教育内容・指導方法としている。
 - (4) その他（以下にご記入下さい）
-

3 「爆発・火災」体感安全教育施設・設備の利用状況について
※点在する複数の施設・設備を一つとみなしてご回答いただく場合は、以下「1)対象者」は、すべての爆発・火災施設・設備に該当する対象者をご回答下さい。「2)利用状況」は、利用頻度の高い爆発・火災施設・設備の頻度をご回答下さい。

1) 対象者について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい（複数回答）。

- (1) 経営層（事業所長、事業部長等）
 - (2) 管理者（課長等）
 - (3) 班長（係長、主任等）
 - (4) 課員
 - (5) 新人（新規・中途）
 - (6) その他（以下にご記入下さい）
-

2) 利用状況について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい。利用がない場合は「(6)その他」にチェックを入れ、入力欄に「利用はない」とご記入下さい。

① 自社内での利用（自社の社員等が利用している場合）

- (1) 1日に1回程度
 - (2) 週に2～3回程度
 - (3) 月に数回程度
 - (4) 数ヵ月に1～2回程度
 - (5) 新入社員採用時等にスポット的に利用
 - (6) その他（以下にご記入下さい）
-

② 協力会社での利用（協力会社にも開放している場合）

- (1) 1日に1回程度
 - (2) 週に2～3回程度
 - (3) 月に数回程度
 - (4) 数ヵ月に1～2回程度
 - (5) 新入社員採用時等にスポット的に利用
 - (6) その他（以下にご記入下さい）
-

③ 一般への利用（一般への利用にも開放している場合）

- (1) 1日に1回程度
 - (2) 週に2～3回程度
 - (3) 月に数回程度
 - (4) 数ヵ月に1～2回程度
 - (5) 新入社員採用時等にスポット的に利用
 - (6) その他（以下にご記入下さい）
-

4 「爆発・火災」体感安全教育における検討課題について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい（複数回答）。

- (1) 同じ内容の体感の繰り返しにより慣れ、より危険・迫力を感じられることが出来る体感を追求してしまうことが課題
 - (2) 体感安全をさせる際の安全対策が課題
 - (3) 体験そのものは教育の目的ではなく、あくまで教育の一手段であり、一過性の体験に留まることなく、「体感を通じて何を学ぶのか」という教育の目的を明確にするのが課題
 - (4) 実際の現場作業と密接に関連する現実的な内容とすることが課題
 - (5) 教育を受けたことで自らの技能や能力への信頼感が高まり、教育前と比較しリスクを低く評価する傾向が強まるのが課題
 - (6) 体験者の想像力を刺激し、自発的な「気づき」を促す教育内容・指導方法とすることが課題
 - (7) その他（以下にご記入下さい）
-

5 「爆発・火災」体感安全教育施設・設備の概要をご記入下さい
（図面、写真等があれば差支えない範囲でご提供いただきたく存じます）。

6 「爆発・火災」防止対策として設備対応の設計思想あるいは具体的な設計基準について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい。

- (1) 会社あるいは事業所として設備対応の設計思想あるいは具体的な設計基準を決めている。
 - (2) 設備対応の設計思想あるいは具体的な設計基準については、部署ごとに決めている。
 - (3) その他（以下にご記入下さい）
-

7 体感安全教育とともに、設備対応及び基準も合わせての教育について、当てはまる番号にチェックを付けて下さい。

- (1) 体感安全教育とともに制定している設備対応、基準類も合わせて教育している。
 - (2) 体感安全教育に絞って教育をしている。
 - (3) その他（以下にご記入下さい）
-

8 その他お気づきの点があればご記入下さい。

アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。